金正恩時代の朝鮮の姿

金　日

私は数日前、平壌のメーデー・スタジアムで大マスゲームと芸術公演「輝かしい祖国」を観覧できる機会を得た。

朝鮮民主主義人民共和国の建国と守護、奇跡と飛躍の 70 年の歴史を芸術的に形象化した公演は、私をして数年間朝鮮でチュチェ哲学を学び、研究する過程に直に見て感じた金正恩時代の朝鮮の姿を世界に伝えたいという衝動に駆られるようにした。

筆力は微弱ながら自主、団結、復興、平和の姿で見える朝鮮の現況を事実通り伝えるのが民族の一員としてだけではなく、真理のみを志向する学者の使命であることを自覚しながら筆を執るものである。

1

呉益済先生は著書「自主国の守護人」の中で「私は南にいる時も共和国が自主国として名立たる国であることを知っていました。しかし、北の社会がこのように主体性と民族性によって尽きることのできない精神力をなし、自主の意志が人々の胸に揺るぎない信念として固められているとは夢にも思わなかったのです」と金正日時代の朝鮮の現実を披瀝していた。

周知のように朝鮮の歴史をさかのぼって見れば、その道は平坦なものではなかった。最後の封建国家であった朝鮮封建政府の 500 年史は大国を恐れ崇拝し、強要と干渉を宿命のように

感受してきた事大主義の歴史として記されている。外国の軍隊が侵入してきても抗弁の一言もできず、植民地争奪ための大国の戦いが自国の地で繰り広げられても目をつぶるしかなかった「立ち後れた朝鮮」の終着は亡国であった。1905年の「乙巳5条約」の捏造によって国権はそっくり日本に移った。

元々朝鮮民族は劣等な民族ではない。

世界最初の金属活字と亀甲船を発明し、世界が認める優れた朝鮮文字を創製した知恵のある民族である。しかし、事大主義は朝鮮の力と精神を次第に麻痺させ、20世紀の初頭には世界で一番哀れな国のリストに記載されるようにした。

歴史上、いかなる国や民族も受けたことのない悪辣な威嚇と恐喝、制裁と圧迫は今日も続いている。世界がもうこれ以上朝鮮は凄絶な試練を乗り越えることはできないと誤判したことも一、二度のことではなかった。

こうした中でも朝鮮は立ち上がった。もちこたえただけではなく、自ら選択した道を疾風のごとく突き進んできた。

敵対勢力が結託して70余年間も威嚇、圧迫してきた朝鮮がどうしていまだに存在しており、崩壊どころか、かえっていっそう強大になったのであろうか?

世人のこの質問に朝鮮人民は異口同音に自主という一言で答える。

この国には自主の支柱が強く立てられている。

中国語で自主という概念は「自らが主人となる。すべての

ことで自分の見解があり、自己の行為に対して責任をもつ」と解釈される。

自主についての朝鮮人民の理解はその幅や深さにおいて世人の想像を絶するものである。

長い間、「自由」の世界で暮らしてきた西側諸国の人々は朝鮮の自主を理解する上で相当難しく思っている。西側諸国の人10人にあなたたちが主張する「自由」とは何かと聞くと、その答えは各人各様である。甚だしくは自由に反対するという人もいる。しかし、朝鮮が主張する自主とは何かと数千人の朝鮮人に聞いて見てもその答えは同じであり、行動も一致している。

西側の「自由」は他国にたいする内政干渉を内包している。朝鮮の自主はこれとは根本的に異なり、確実に事大と内政干渉を排撃する性格をもっている。朝鮮の自主を理解するためにはこの糸口を掴んで入ればいい。

金日成主席の指導史を総括して見れば、厳しい試練と困難の行路の上で常に民族自主の柱を確固と打ち立て、勤労大衆の立場をしっかり固守し、社会主義を堅持して人民大衆中心の富強で尊厳高い国家を建設してきた自主の歴史であった。

自主は神聖な権利であると同時に、それを保証する力である。

金正日総書記は1996年1月に発表した著書「今日のための今日を生きるのでなく、明日のための今日を生きよう!」の中で「死を覚悟した者にかなうものはこの世にいない」というのはわが革命家たちが担うべき信念であり、度胸であると述べ

ている。

総書記が展開した先軍政治は、朝鮮式社会主義を固守しただけでなく、先端科学技術分野の実力を大きく育てたと同時に、革命的軍人精神を全社会に一般化することにより、朝鮮の一心団結を一段と強化し、国の精神的力を類を見ない高い段階に至らしめた。国の防衛も建設もみな受け持った朝鮮人民軍のような軍隊は世界のどこでも見出せない。

自主の柱は金正恩時代にもそのまま受け継がれている。

金正恩委員長は朝鮮を誰かの機嫌をうかがい、制裁と圧迫を恐れて別の道を選ぶ脆弱な国ではなく、世界が公認する強大な自主国としてさらに浮上させる民族の英雄である。

朝鮮労働党第7回大会で金正恩委員長は、崇拝しても自民族を崇拝し信じても自民族の力を信じるべきであり、統一議論をするにしても自民族とすべきであると、民族自主意識をむしばみ、民族自強力を麻痺させる事大主義と外部勢力依存を断固反対・排撃すべきであると述べている。

自主信念、自主意志が脈打つ真に深い意味のこもったお言葉である。

委員長のこうした信念と意志はすなわち、世界を驚嘆させる知略と路線、政策を生み、名実ともに自主国としての朝鮮の姿を世界の前に明白に現した。

委員長が分断史上、初めて銃口をまじえた板門店の分離線を果敢に踏み渡り、北南に行き来する時、世界は自主国の領袖

らしい決断と度胸を見た。

金正恩委員長の最初の外国訪問は隣邦である中国である。委員長は中国の習近平主席との対面で、伝統的な中朝友好関係の絆を再度つなぎ、関係発展の新たなページを開いた。数ヶ月の間に三回も中国を訪ねて両国が手を携えて善隣友好の道を歩む驚異的な現実をもたらした金正恩委員長の対外政策は自主路線、自主政治の一環であるといえる。

6月12日、世界では歴史的なシンガポール朝米首脳対面と会談によって嵐のような反響が起こった。

金正恩委員長の独自の思考と実践、自主に深く、強い根を下ろした驚くべき政治実力は、同等の姿勢で新たな時代、新たな情勢に合わせて各自の理解に充満される解法を探して朝米関係史を新たに記すことのできる驚異的な現実をもたらしたのである。

自主から出発し、自主に一貫された金正恩委員長の指導力によって朝鮮は世界の一角に聳え立ち、世界は小さくて大きな国、自主強国の朝鮮を新たな目で見るようになった。

これは私が見た自主で強大な金正恩時代の朝鮮の姿である。

2

朝鮮の人々は習慣的に初めて会う人に「あなた、所属はどこですか?」とよく聞いている。これは朝鮮のすべての社会構

成員がみな一定の組織に網羅されていることを意味する。

朝鮮のように老若男女を問わず、みなを該当の組織に受け入れて正規的に組織生活ができるようにする国はこの世にまたとないらしい。こうした多くの組織が一つ一つ集まってこの国にしか見られない社会政治的生命体が形成し、全社会は一つに団結された社会主義大家庭を成す。

一人、一つの地域も漏らさず、見守り指導するこの国では誰もが「一人はみんなのために、みんなは一人のために!」という理念を生活の要求として受け入れており、集団に頼り、集団の力に喜悦を感じながら一つに結束してさらに大きな存在として育っている。

去年の 8 月のある日、私は金日成総合大学の留学生寮の廊下で中国の女子学生と 50 代の管理人との対話を偶然に聞いたことがある。

その女子学生が管理人に下手な朝鮮語で「お母さん、今日われわれは錦繍山太陽宮殿に行ってまいりました。金日成主席と金正日国防委員長さまに挨拶してまいりました。」と言った。

すると、その管理人はしばらく働く手を休めて情愛深い眼差しで女子学生を見ながら彼女の汗をかく顔も拭いてやり、背中も叩いてやりながらあっぱれだと、朝鮮に来ればぜひ主席と総書記を訪ねて挨拶しなくちゃと言いながら満面に笑みを浮かべるのであった。

校舎の管理人であるならば、どの国でも見られる平凡な勤

労者である。こうした普通の勤労者が自国の領袖に敬意を表した外国人留学生をあれほど愛してくれる姿は感動なしには見られない真に美しい画幅である。どの国でもこうした姿は見られない。領袖を慕うのが朝鮮人民の間ではすでに生活化されている。

政治を重視する社会主義朝鮮は自己方式の固有な政治方式を具現してきた。朝鮮は少数による政治か、多数による政治かという問題意識を超越して民主主義概念そのものを「多数による政治」から「人民大衆の意思を集大成した政治」に再定立した。人民にたいする愛と信頼を社会主義の基本政治方式に規定し党と国家活動に具現している。

ここでもっとも主な標的にしている的の一つが古い社会の遺物である権柄と官僚主義である。権柄と官僚主義に終止符を打ち、人民にたいする愛と信頼を現実化する過程に朝鮮では全人民を運命を共にする一つの生命体として結びつけた。

朝鮮の社会政治的生命体理論で「生命体」は指導者と全人民が一身となるという意味をもつ。

指導者と人民が運命を共にする問題は決して法では解決できない。指導者と人民が一身になるためには互いに信じて頼るべきである。朝鮮ではこれを同志的愛と信義の関係で解決した。指導者は人民を愛し、人民は指導者の政治に信義的に従う同志的な道徳関係によって指導者と人民は絶対に裏切ることのできない一身となる。

指導者と人民の関係で指導者の人民観が決定的作用をする。

金正恩委員長の座右の銘は人民重視、人民愛である。

2017 年 1 月 1 日、金正恩委員長は「新年の辞」で常に気持ちだけで、能力が追いつかないもどかしさと自責の念に駆られながら昨年を送ったが、今年は一層奮発して全身全霊を打ち込み、人民のためにより多くの仕事をするつもりであると述べている。

人民のために収めた業績が足りないようで、あまりにも謙遜かつ厳かに立てるこの誓いは金正恩委員長の人民観がどんなものであるかをよく示唆してくれる。

愛の政治が実施されて指導者と人民が一心で暮らす運命共同体がまさに朝鮮の社会政治的生命体である。

金が奇跡を産むのではなく、人間が奇跡を産む。

領袖と人民間の絶対的な信頼と愛にもとづいた一心団結は経済建設分野でも大きな威力を発揮している。

朝鮮革命博物館には「建設の大繁栄期を輝かせる誇らしい建造物」という題で 2012 年―2015 年まで朝鮮で建設した建造物が衛星科学者住宅地区、馬息嶺スキー場、元山育児院と愛育園、白頭山英雄青年発電所をはじめ、みな 80 余個という資料がある。ここに科学技術殿堂、黎明通りなど、去る 2 年間に創造された多くの建設物を加えると最近朝鮮で天地開闢が起こっていることが分かる。

朝鮮が国際社会の長期間にわたる制裁の中でも微動だにせ

ずさらに高く聳え立っていることは志向と理念、理念と政治、政治と現実が人民を大前提にして完全な統一を成したからである。

こういう意味で指導者と人民の一心団結は朝鮮特有の生産力であると言える。

朝鮮の一心団結はその出発点が領袖の人民愛であることにより、真理であり、領袖にたいする人民の信頼が絶対的なものであることにより、不可抗力的で総体的志向が人民大衆中心の社会主義であることによって非可逆的である。

朝鮮の人々はこの世にやりきれないことも、恐れることもないと確信している。

それは彼らに原爆よりもっと強い力であると自負する一心団結という財宝があるからだ。

これは私が見た団結によって威力ある金正恩時代の朝鮮の姿である。

3

今年6月、元山農業総合大学と元山製靴工場を参観するために三回目に元山市に行った。元山湾の東側に位置した葛麻半島が視野に入ってきた。

名砂十里の浜辺沿いに大小の多様な建築物が背伸びしてそびえ立つ巨大な元山葛麻海岸観光地区建設現場の全景は実に

壮観であった。日増しに復興する朝鮮の姿が一望に収められるようであった。

「労働新聞」5月23日付けによると、今年の春季国土管理総動員期間に全国的に数百万㎥の河川の底掘りと100余万㎡の護岸工事を行って、数百kmの河川が整然と整理され、160余ヘクタールの護岸林も造成されたそうである。最近、数年の間に朝鮮ではすべての山を黄金の山につくるための「自然との戦争」が展開されている。

今年の8月、金正恩委員長は三池淵郡内の建設場を現地指導しながら三池淵郡を山間地帯の固有の特性と民族性が立派に結合、具現された郡としてつくるためには郡所在地を立派に整備した後、3～4年の間に年次的に段階別目標を立てて郡内のすべての農村を現代的に改建すべきであると、そうして全国的な標準郡、モデル郡、方式授業単位にすべきであると述べた。

まもなく、平野地帯、山間地帯を問わず、この国のすべての山と原、海が復興する黄金の原、黄金の山、黄金の海となるだろうと確信する。それは委員長のビジョンであり、人民の実践だからである。

数十年前にある国の大学の招へい教授であるジョジフ・ナイが「無形の実力」という概念を提示したことを契機に国際的に一国の力を基本実力と無形の実力に分けて観察し始めた。この論調によると、基本実力には経済実力、軍事実力と科学技術実力などの物質的力が含まれ、無形の実力には政治実力、文化

実力、外交実力などの精神的力が含まれる。

世界的な冷戦が終息された後、多くの社会主義国が西側の国々の無形の力によって簡単に崩壊したが、その主な原因は政治家たちが勤労大衆の立場を捨てて自国人民の力を信じなかったからである。言い換えれば、基本実力ではなく、無形の実力に大穴が開いたのであった。

朝鮮の国力は大したものである。それは一国の力が外部に表現される時には基本実力と無形の実力が有機的に結合された総合実力として表れるからだ。この国の力の特徴は基本実力の見地から見る時、国の経済規模は小さいが、強固な自立的民族経済土台と強大な軍事力を持っている。無形の実力では指導者の非凡な政治実力と一心団結の力、健全な社会文化影響力を持っている。

今年の 4 月、朝鮮労働党は経済建設に総力をあげるという新たな戦略的路線を示した。「科学で飛躍し教育で未来を保証しよう!」というスローガンは朝鮮の実情と時代の流れに合致する鼓舞的なスローガンである。

今日、朝鮮は単なる物質的富の創造ではなく、科学教育を優先させて社会のすべての領域を改造、近代化し国の総合国力を新たな境地に引き上げるための方向に進んでいる。2012 年最高人民会議第 12 期第 6 回会議では法令「全般的 12 年制義務教育を実施することについて」を代議員の全会一致で採択した。

朝鮮はすべての人々が一生涯、無料で勉強できる国である。

最近朝鮮では中等一般教育を発展させることに力を入れながら全民を科学技術人材化することを目標としている。

全民科学技術人材化とは社会のすべての構成員を大学卒業程度の知識を所有した知識型勤労者に、科学技術発展の担当者として準備させることを意味する。

朝鮮で科学重視、教育重視は宣伝ではなく現実である。

金正恩委員長は全民科学技術人材化実現において中核的役割を遂行すべき教育者、科学者たちの生活を保障する活動に深い関心を払っている。平壌の中心部に倉田通りが完工した時に委員長が一番先に訪ねた家庭は夫婦と二人の娘が教員を務める教育者家庭であった。委員長は国の人材を育成することに生涯を捧げている教員たちは真の愛国者たちであると述べた。

今年の 4 月の末、私は中国の威海にある山東大学に行って「自主朝鮮の物語」という題で招へい講義を行った。

中国の有名な教授たちも傍聴するというので講義テキストを自分なりに熱心に準備した。

私は聴講者たちに「2017 年 4 月、平壌に黎明通りが新しく建設された。その中で住宅も多く建てられたが、金日成総合大学の教員、研究士の家族 1700 余世帯が委員長の配慮によって無料で大きな住宅を配られた。」と話しながら教員家族が引っ越すシーンと住宅の内部構造を撮った写真を示した。講義を傍聴していた貫禄つきの教授たちを含んだすべての教員と学生たちは驚きと驚嘆でざわめき、一斉に私に騒々しい拍手喝采を

送ってくれた。

瞬間、朝鮮民主主義人民共和国の博士として、すばらしい現実の目撃者としての誇りが全身を包んだ。

朝鮮は経済管理分野でも新たな革新をもたらしている。

最近、朝鮮が新たな経済管理方法を確立する上で注目される点は次のようである。

第一に、科学技術の普及と導入活動を立派に行い、すべての部門と単位が新技術開発と導入に切実な利害関係がもてるように経済管理を改善しているのである。

第二に、生産と建設の担当者である勤労者の責任感と役割を高めて生産を最大限に増やせるように経済管理を改善しているのである。

第三に、すべての企業体が企業活動を主動的に、創意的に行うようにする方向で経済管理を改善しているのである。

朝鮮で「社会主義企業責任管理制」という新たな経済管理方式が工場、企業、協同団体で全面的に導入されており、協同農場では従来の分組管理制内で「圃田担当責任制」という新たな方式が実施されている。

科学と教育が重視され、新たな経済管理方式が確立しながら多くの企業と農場がその恩恵を被っており、集団的競争熱気が旺盛で人民の生活は日増しに豊かになっている。

今年の 4 月の末、中国の有名な研究組織である「盤古研究所」は朝鮮経済現況にたいする研究報告書を発表した。ここに

は朝鮮の鉱物質資源について評価した資料もある。

「…すでに発見された鉱物質資源の種類は300余種であり、その中で200余種の鉱物質が経済的開発価値がある.…」

朝鮮の「愛国歌」には「朝は輝け　大地　黄金のめぐみ　あふれ…」という一節がある。歌詞にあるように朝鮮は実に山良く水清らかで資源が豊富な国である。

私は朝鮮人民が金正恩委員長の賢明な指導の下に自らの資源と技術、自己方式で必ず世人を驚嘆させる奇跡を創造するだろうと確信する。

これは私が見た復興する金正恩時代の朝鮮の姿である。

4

恒常的に核戦争の危険が漂う世界最大のホット・スポットである朝鮮半島で戦争を防止し、平和を守ることは世界の平和と安全を保障し北東アジア地域の繁栄と発展を遂げる上で焦眉の問題である。

2017年末まで朝米間の関係は互いに最小限の信頼もない、いつでも太刀打ちできる敵対関係であった。世界はアメリカと朝鮮が対決一面へ進むならば、朝鮮半島はもとより、地球全体が核戦争の惨禍から脱せないだろうという不安に陥っていた。中国をはじめとする周辺国の憂慮はさらに深かった。朝米間の

軍事的対決はすでに一地域、両国間の範囲を脱して世界の平和と安全に直結した世界的な焦眉の重大事であった。

朝鮮半島の情勢は2018年に入って画期的な変化をもたらした。

金正恩委員長の今年の「新年の辞」が世界に実況中継されながら国際情勢ではとうとう反転が始まった。全同胞と世界人民の平和安定のために金正恩委員長は果敢で独自的な大決断を下ろしたのであった。

金正恩委員長の平和の歩行はもっとも敵対的であった朝米両国間の関係を画期的に転換させる上で大きな事変へと結ばれた。

世界の主要言論が先を争ってこの重大事を大見出しで報道した。

中国の外交部長王毅は「朝米両国は半世紀以上も敵視してきた。両国の最高指導者が一堂に会して平等な対話をすること、それ自体がまさに重大で肯定的な意義を有するだけでなく、新たな歴史が創造されていることを意味する。中国はこれを歓迎し支持する」と言った。

激変する朝鮮半島の平和と和解の雰囲気はすべての同胞の心を引き付けており、時には夢か現か、錯覚するほど人を驚嘆させる奇跡に奇跡を生み出している。

今日、世界は「朝鮮は決心すれば実行する!」というスローガンが決して空言でないことを実質的に感じ取っており、朝鮮

問題専門家の間でも万里馬があまりにも早く走り過ぎて追い付けないという「怨望」も出て来ている。

平和は天から落ちるものでもなく、地中から噴出するものでもないし、誰かがプレゼントするものでもない。一国に平和を定着させ、維持して行く上では数多くの英雄神話が必要であり、指導者たちの卓越した政治実力と先見の明が伴われる。

金正恩委員長はトランプ大統領と単独談話で今日ここまで行き着く過程が決して容易でなかったと、過去の歴史がわれわれの足首を掴んで誤った偏見と慣行がわれわれの目と耳を隠したが、それらすべてを果敢に粉砕してこのようにここまで来たし、新たな起点に立つことができたと意義深く述べた。

朝鮮にたいする偏見と歪んだ国家間の関係が一つ一つ正されて回帰し、朝鮮半島情勢が力の対決から徐々に和解と平和へと流れているのは民族の運命と世界平和にたいする崇高な責任感を抱き、朝鮮半島における戦争危険を根源的に終息させるために自分のすべての労苦をいとわない金正恩委員長の大決断によるものである。

70 余年の長きにわたって続く北南間の対決と嫉視の関係も次第に平和と信頼の関係に変わりつつある。

金正恩委員長の「新年の辞」が発表された以降、北南間に高位級代表団の往来が増え、とうとう北南首脳対面へと結ばれた。金正恩委員長と文在寅大統領は板門店の分離線で対面して握手し互いに挨拶を交わした。民族の和解団結と平和繁栄の新

時代を開いた歴史的な対面であった。

その後、北南関係は平和と和解協力の軌道の上で加速的に発展している。わずか5ヶ月もならない間にすでに三回目に北南首脳の対面が実現し、「9月平壌共同宣言」が採択された。9月 20 日、北南首脳が白頭山に登って互いに手を取り合って全同胞に向かって高くかざす時、世界は朝鮮半島で平和、繁栄の新歴史が自己軌道に確固と入ったことをはっきり見た。

朝鮮半島でとうとう迫ってきた平和と和解の雰囲気はこの上なく大事で貴い。ここには朝鮮の先代の指導者たちの終生の労苦が秘められており、勇敢かつ、英知ある朝鮮人民の血と汗が滲んでおり、委員長の愛と信頼の哲学がある。

平和へと、統一へと行く道は常に平坦ではない。数千万同胞の共同の願いではあるが、いまだに実現されていない。

しかし丹精こもる塔が崩れようか。

私は金正恩委員長と文在寅大統領の三回目にわたる歴史的な対面が美しいわが国の大地に平和と繁栄をもたらし、統一の大門を大きく開く結果へと結ばれることを心からお祈りする。

これが私が見た平和の新時代を開いていく金正恩時代の朝鮮の姿である。

*　　*

私の書斎には 2011 年から 2017 年までの「朝鮮中央年鑑」がある。

金正恩委員長が執筆した著作の部数、現地指導を行った次数、スポーツ試合と公演観覧を行った次数、主な記念日の行事に参加した次数など、世界に公開された革命活動の資料だけを統計して見てもこの数年間、委員長は昼夜を分かたず献身、奮闘したことを知ることができ、朝鮮人民がどれほど偉大な指導者を奉じて暮らしているかを知ることができる。

金正恩委員長の偉大な思想と非凡な指導実力、精根を傾けた情熱と献身があったからこそ、今日朝鮮は自主の姿、団結の姿、復興の姿、平和の姿で世界の耳目を集めているのである。

委員長は名実ともに朝鮮の強大さの象徴であり、百戦百勝の旗印であり、非凡な指導実力を備えた世界的巨人である。

私はこの機会に朝鮮を偉大な社会主義強国へと指導する金正恩委員長に最大の栄光を謹んで捧げる。

私は中華人民共和国の公民として伝統的な中朝親善が代を継いで永遠であろうことを祈願する。

必勝の朝鮮に限りない栄光あれ！

（筆者は金日成総合大学でチュチェ哲学を研究している中国延辺大学教授）